

第3回（仮称）ひたち若者かがやきプラン策定委員会 議事要旨

日 時 令和2年12月17日（木） 午前10時から正午まで

場 所 日立シビックセンター 集会室

出席者 委員9名（欠席6名：中村委員、高久委員、鈴木委員、菊池（理）委員、湯浅委員、松村委員）

<会議概要>

1 開会

2 委員長挨拶

- 前回までの会議でプランの形が見えてきたように思う。
- 今回もワークショップが会議の中心になるかと思うが、見えてきた形をベースにして、自由に忌憚のない意見をお願いしたい。

3 議題

(1) パブリックコメントの実施について

事務局から資料に基づき説明し、了承された。

(2) 意識調査結果について

事務局から資料に基づき報告した。

○ 委員長

市内の回収率は24.1%で、意識の高い方に回答いただいた可能性がある。首都圏と単純に比較はできないと思うが、日立市内は、首都圏と比較し、職場に関する不満や人間関係の悩みなどがあっても、働く場が少ないため、転職は難しいと感じていようだ。

(3) ワークショップ

ア 前回のワークショップ及び個別ワークを基にした「（仮称）ひたち若者かがやきプランのアウトライン」に示された2つのテーマについて、ワークショップを行った。

イ AとBの2つのグループにわかれ議論を行い、検討結果を各グループから発表し、最後に委員長から講評を得た。

(ア) テーマ1 「若者かがやく環境をつくるための基本方針」

(イ) テーマ2 「若者かがやく環境づくりの施策」

ウ 【Aグループ】 リーダー：和田副委員長

メンバー：志摩委員、菊池（晃）委員、大森委員

【Bグループ】 リーダー：菅原委員

メンバー：山形委員、寺家委員、天坂委員

エ 内容

◆ 【テーマ1「若者がかがやく環境をつくるための基本方針」】

【Aグループ】の意見

○ 副委員長

- ・大きく3つの内容で意見が出た。1つ目は、アウトラインの中に、今まで議論してきた内容が7割がた反映されていると感じた。例えば、若者がかがやくという点で、夢や目標をもって挑戦する環境づくりという部分が盛り込まれていると感じた。
- ・2つ目は、子育てや本音を言い合えるコミュニティ、経済的な援助だけではない地域のコミュニティ、セーフティネットなど、カテゴリーとしては入っているが、もっとわかりやすく表現されていてもいい気がする。
- ・3つ目は、難しい部分ではあると思うが、プランの全体的な表現の仕方が気になっており、抽象的な表現ではなく、具体的な表現にすることでより良い方針となるのではないかと思う。

【Bグループ】の意見

○ 委員

- ・大きく分けて3つの意見があり、1つ目は、基本方針の3番にある「若者の挑戦を支援する仕組みづくり」のところで考え方に違いがでるのではないかとの意見があった。
- ・日立に残ってもらうことと同様に、日立に来てもらえるための状況づくりが大事である。また、日立から出ていった人に戻ってもらうためには、いつ、どのタイミングで仕掛けるのかを踏まえる必要があり、プランでは18歳から39歳までを対象としているが、18歳より前の段階で仕掛けていかなければ、シビックプライドの醸成にはつながらないと思う。
- ・2つ目は、日立に通学する学生には、いわき市など市外、県外の学生もいることを考え、日立の印象を上げることが大事だと思う。
- ・3つ目は、Aチームでも意見があったが、表現の仕方についてである。内容を絞り、一点突破するような表現にし、仕組みづくりを考えていくのがいいのではないか。

【事務局】

- どちらのチームからも「挑戦ができる場所である」が共通したキーワードのようである。
- 具体的な表現にした方がいいとの意見ではあったが、基本方針は、プランの進む方向性を示すものである。大きな表現でも、そこから課題や基本施策とのつながりが見えるようにできればいいと思う。
- 本日のこの時間の中で基本方針の表現を決定することは難しいが、キーワードとして意見を出していただき、細かい施策につながるようにしたい。

◆ 【「かがやく」の定義について】

【委員長】

- テーマ2に移る前に、基本方針を検討する中で、委員から会議を進める上で重要な提案があったので、確認することとしたい。
- 第1回の会議でプラン策定に関する進め方などの説明があり、前回のワークショップを経て、本日、基本方針や施策について議論を行っているが、前回の会議から本日の議論に至るまでの経過、ストーリーがすっぱり抜け落ちている気がすると思意見があった。
- 会議を円滑に進めるために、委員長、副委員長を含む数名の委員と事務局で、打合せを複数回実施しているため、ストーリーが抜けているという認識はなかったが、委員の中にそのような認識があるままプラン策定を進めてしまえばズレが生じてしまうため、このタイミングで意見交換を行いた。まずは、委員から詳細について説明をお願いしたい。

【委員】

- 最近の統計で、日立市民の日立市に対する満足度が高いという結果があったが、満足度が低い人は市外に出てしまっており、満足している人だけが残っているため、満足度が高いという結果が出たということも考えられる。
- プランを基に、若者が取り組みを実践し、人口減少を食い止めようとしているのだと思うが、進学などで外に出てしまうことは止めることができないと思う。そのため、市外に出た人をどうしたら戻ってもらえるのかを考える必要がある。
- このプランは18歳からを対象としているため、すでに出ていった人への対策が取れないことになる。ずっと市内にいる人やたまたまその時期に市外から日立に来ている方は「かがやく」ことが出来るが、市外に出て行った方への対策をどうするのかの議論が抜けたまま、今回のワークショップが始まってしまった気がする。
- 市としては、「若者がかがやく」ということを目標としているが、かがやこうと思っていない人たち、普通に生活できればいいと思っている人たちが日立に残ってもらったり、日立に戻って来てもらったりというところをどのようにするのかという部分も見えてこないの確認したい。

【委員】

日立に住んでいる人も、市外に住んでいて移住を考えている人も、自分がかがやく、かがやかないにかかわらず、普通に暮らしたいと思っている人が多数派だと思う。そのような方たちに対しての橋渡しをする必要があり、そういった内容の文言がプランに入っているといいのではないかと思う。

【副委員長】

- 意見はいろいろあると思うが、コミュニケーションとして伝えるということと、別軸でストーリーや共感を生むようなものがなければ、新しいものができてもすぐ忘れ去られてしまうのではないかと思う。
- こういう役割を初めて受けた中で、どこまで踏み込んでいいのかと思っていたが、会議とは別軸で作れるのであれば体裁として進めて、委員間でのコミュニケーションをとる方法を検討してもいいと思う。

【委員長】

- 「かがやく」という言葉に違和感があり、プラン策定のためには、「かがやく」という言葉自体の定義を考えなくてはいけない。
- プランが出来たことで、かがやいた人はそれで成長し、能力を発揮して都会で働くということもあるかもしれないが、ダイバーシティ（個人や集団の間に存在している様々な違い）という考え方が徐々に浸透している現在において、自分自身がかがやいているという思いがあればそれでもいいと思う。
- 色々な考え方があるの中で、「かがやく」という言葉の定義、意味付けをしていかななくてはならないと思う。
- 方針の切り口がぼやけているといった意見もあったが、ぼやけた内容にするからこそ多くの内容を含めることが出来るといった利点もあると思う。
- 方針の切り口については、日立に住んでいる人に対し、日立市の良さをどのように伝え残ってもらうか、ということと、市外の人に日立の良さをどのようにして知ってもらい来てもらえるようにするか、といった切り口にするといいのでは、との意見もあったと思う。最初の目的に立ち返って考えてみるとその通りだと思う。

【委員】

かがやかなくてはいけないのかというプレッシャーが自分にはある。個人的な意見だが、「かがやき」という言葉は、「セルフコンパッション（あるがままの自分を受け入れる）」で、自分自身はいろいろできるわけではないが、昨日よりは悪くない、自分史上最高というようなことが定義となればいいと思う。

【事務局】

- 「かがやく」という言葉の定義は、プラン策定の上で必要だと思う。
- 日立に残ってもらうこと、日立から出ていった人に戻ってもらうためには、以前から出ているシビックプライドという言葉がキーワードになると思う。その部分については、次のテーマ2のワークショップで検討していきたい。

【委員】

- 委員で検討しながら決めていく内容であり、決めつけるものではないという前提で、もう少しシンプルにするといいのではないかと思う。

- 市外から来た人間としては、この町にいる理由は仕事があるからである。職種、業種に選択肢があれば、進学などで市外に出ても戻ってくると思うし、就職も市内を選び、市外には出ないのではないかと思う。また、市内で働いているが、市外に住んでいる方へのアプローチも検討すべきだと思う。
- 東京などの都会にしかないような職種や同じ職種の企業が市内にあっても、企業のネームバリューで選択しないかもしれないが、そもそも市内にその職種があることを知らず、選択肢に入らないことをなくす必要があると思う。
- 子育てや趣味などへの支援も大事だが、それがあから日立に住むのかということと本質的なものではないように思う。本質部分ではなく本質の周辺部分ばかり議論してしまうとおかしくなってしまう。本質部分と周辺部分は切り分けて議論した方がいいと思う。

【委員】

- 本質的な部分ではないかもしれないが、資料に記載してある文言の中には、すでに市が取組みとして実施しているものもある。例えばキャリア形成支援などであるが、今回、新しくプランを作るにあたり、何が新しい部分なのかということ「若者」という部分だと思う。
- 自分も外から来た人間だが、経験から、仕事がある、学校があるという部分が重要で、それがあからこそ、我々がここにいられるのだと思う。
- 昔全て失ない途方に暮れ、実家のある地元に戻るしかないような状況になった時、手を差し伸べて応援してくれる人たちがいた。その時は、行政に頼るという発想は全く出てこず、自分で何とかしなくてはという気持ちだった。
- そういった状況に置かれた時のかがやいた瞬間は、仕事が見つかった時であり、そういう意味では、一人ひとりの「かがやく」という認識には違いがあると思う。
- 若者同士の縁が結べるような仕組み、例えば居場所や会社、組織などを作りたいと思う。

【委員長】

- 委員の意見を聴いて、すっと落ちる物があつた。
- このままワークショップに進んでいいのかという思いもあるが、先に進めたい。

◆ 【テーマ2「若者がかがやく環境づくりの施策」】

ライフイベント「卒業」「就職」「起業・創業」「出会い・結婚」「出産・子育て」「暮らし」「介護」「家を探す」などの紐づく施策について検討した。

【Aグループ】の意見

○ 委員

- ・「卒業」の部分で、理想論だが、空き家の利活用促進策として、高校生であれば寮としての使用や、大学生であれば一人暮らし希望者への賃貸にしてはどうかと思う。

- ・「暮らす」は、例えば夫婦や家族などのシェアハウスのような場所で、経済的な支援ではなく、ライフプランを相談する相手がいるという環境を提供するなどができれば、日立に住み続ける展望が見えてくると思う。
- ・「起業・創業」では、地域貢献団体などが連携しているようには思えないため、連携して実施するイベントなどに一括して補助金を出し、その補助金の中で自由に実施し、フィードバックしてもらったことを継続することで、地域の活性化も進み、若者がより集まる場所となるのではないかと思う。

○ 委員

- ・デジタル化した社会の中で、日立のどこにいても通信ができ、施設だけでなく、海辺や山のなど自然環境の中でも仕事ができるぐらいの Wi-Fi 設置やランニングコストなどの支援を行政が行い、通信環境を整えられたらいいと思う。それにより、リモートワークや移住へのコストが下がるとともに、「Wi-Fi に強い街」とPRでき日立が魅力的に映る可能性がある。
- ・行政主導の開業支援があってもいいのではないかと思う。例えば、銀座通り復活プロジェクトとして、今は様々な事情で開いている店が少ないが、そういったテナントを行政が買い上げ、新規開業を希望する人に貸し出すことで、その先の出会いなどにもつながるのではないかと思う。

○ 副委員長

- ・行政と民間の若手で合同研修があってもいいのではないかと思う。意見や志などを共有し、交流する場があることで、このまちのことが互いに「自分ごと」になるのではないかと思う。
- ・日立市プレイヤーリストについて、市内には面白い方がたくさんいるにもかかわらず、リストが個別になっているため、行政も把握しきれておらず、人づてに紹介してもらわないとわからない状況である。リストをまとめ、分かり易いサイトがあれば、人材活用がしやすくなるのではないかと思う。

○ 委員

- ・学校では教えていない、教えてくれないことが沢山あると思う。例えばお金の稼ぎ方や恋愛の仕方、向いていることや将来像など、画面上の情報だけでなく、生の情報を直接教えてくれたり、一緒に学び合えたりする場があるといいと思う。
- ・人は年齢を重ねてもワクワクしていたいというものがあり、例えば、異性との出会いなどもあっていいのではないかと思う。そういった場を同年代の人間が企画・実践するのではなく、若い人たちができればいいと思う。
- ・その際、どうしても利用率や参加者数などの数字が求められてしまうことがあるが、場所があるというだけで心の支えになる部分があり、救われる人もいると思うので、利用者が少なくても続けられるようにしてほしい。

【Bグループ】の発表

○ 委員

- ・大学から、就職についてのメールが多い日は1日に約20通送信される。その中に、日立市内の情報があっても、紛れてしまい分からなくなってしまうため、大学や大学内の団体などと連携し、情報を発信できないかと考えている。
- ・SNSでの情報発信については、市の情報の多くはフェイスブックからの発信となっているが、今の大学生は、フェイスブックやツイッターはほとんど使っておらず、主流はインスタグラムになってきている。若者がどのようなツールを使っているかなどの情報収集を行い、常にアップデートする必要がある行政にはあるのではないかと思う。

○ 委員

地域内で働きたい職種、業種がなかったり、探せなかったりすると、外で探すことになってしまう。

○ 委員

- ・行政は様々な施策を実施しているが、市民が知らないため利用されていないことが問題であり、施策の周知が重要だと思う。
- ・行政が情報発信する際、炎上しないようソフトな内容で発信していると思うが、内容がソフト過ぎると、様々な情報に埋もれてしまう。ある程度、見続けてもらえるような面白いコンテンツで、内容が少し尖っていたとしても、炎上しない空気作りをしておけばいいのではないかと思う。

○ 委員

- ・今回議論した中で、ライフイベントのステップ1として「卒業」、「就職」、「出会い・結婚」、「起業・創業」があり、そこから派生して「出産・子育て」や「介護」などがステップ2になってくると考えた。
- ・コミュニケーションの部分で具体的な施策などを変えていかなくてはいけないと思う。

【委員長】

短く限られた時間ではあったが、たくさんの貴重な意見が出された。今回の意見は、事務局に大事に扱ってもらい、次回の会議までに整理してもらいたい。

4 事務連絡

(1) 次回の日程等について

次回は1月13日（水）午後から日立シビックセンターで開催

5 閉 会

以 上